

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		11/1-8	11/8-15	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.110	0.100
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.044	0.076
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.065	0.120
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.100	0.098
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.041	0.080
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.052	0.069
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.066	0.091
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.042	0.041

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		11/1-8	11/8-15	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.040	0.082
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.061

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第73回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(平成29年11月1日～平成29年11月15日)

平成29年11月1日～11月15日の南相馬市の大気浮遊じん中の放射能濃度測定では、セシウム134は、観測されず、セシウム137は、測定地点の違いに関係なく平均0.095mBq/m<sup>3</sup>と低い値でした注1。この結果は、同じ時期に、国や県が南相馬市でおこなった大気浮遊じん放射能測定値と一致したもので、健康影響が現れる値に遠く及ばないものです。

注1 平均値を算定する際、不検出は、現在用いられる測定法では検出できないほど低い値となるため、便宜上、ゼロとして計算しています。